

「『高校改革』を知る・考えるフォーラム」開催！

県教委の実施方針(案)に異論や懸念が相次いで出される

「長野県の教育を考える会※」では7月27日に岡谷市で「『高校改革』を知る・考えるフォーラム」を開催しました。教職員、保護者、同窓会員など多くの方の参加がありました。

当日は、はじめに「信州の教育と自治研究所」から、県教委が公表した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案)」で提案されていることについての概要、問題点等を報告した後、それを受けて参加者で様々な立場からの意見交換を行いました。

※2012年に民間教育団体、教育研究者、県教組、高教組が呼びかけ結成、36団体で構成。



「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針(案)」で提案されていること

「信州の教育と自治研究所」 原 貞次郎 所長より

1 「実施方針(案)」の概要



(1) 新たな学びの推進

方針1 「すべての高校が新たな学びに転換」

「探求的な学び」への転換 「3つの方針」の策定

「DP」検証のフィードバックシステム 「PDCAサイクル」による検証

方針2 「多様な学びの場・仕組みの整備充実」

総合学科・総合技術高校 多部制・単位制高校充実
モデル校 (スーパー探究科 SGH校 国際バカロレア研究校・・・)

方針3 「新たな学びにふさわしい環境整備」

学習・生活環境整備 ICT環境整備

(2) 再編・整備計画

方針4 「少子化に対応」

「小規模分立の状況を回避し、教育効果・投資効果の最大化」を

方針5 「多様な学びの場を全県に適切に配置」

方針6 「地域の検討を踏まえて再編整備計画を策定」

「高校の将来像を考える地域の協議会」設置 「協議会」は県教委へ意見・提案
「地域での『高校の学びのあり方』の検討の視点」 「旧12通学区ごとの再編計画の方向性」を示す



2 「実施方針(案)」の問題点

問題点1 すべての高校のかたちを変えようとし、しかも知事部局が主導

- ➡ 「しあわせ信州5か年計画」「教育振興基本計画」に組み込まれ、高校再編の目的は「教育効果・投資効果の最大化を目指す」と財政目的にあることを明示しています。

問題点2 「すべての高校が『3つの方針』を策定する」

- ➡ 「3つの方針」とは大学改革で指示された「DP：ディプロマ・ポリシー（生徒育成方針）CP：カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）AP：アドミッション・ポリシー（生徒受け入れ方針）」のことです。大学改革方針をいきなり直接高校に適用とは驚きです。高等教育と中等教育という教育の階梯の違いは歴然としています。また、「生徒受け入れ方針」は、「受け入れ」とともに「排除」につながることであり県立高校に求めてはならない考え方です。

問題点3 「都市部では、小規模分立の状況を回避し」と大規模校を主張

- ➡ 生徒との距離が近く行き届いた教育が期待される4学級規模の学校を否定し、6学級以上の大規模校を推奨します。ようやくモデル校で「少人数学級の教育効果を検証」と言いますが、高校改革の主要な柱とするべきではないでしょうか。

問題点4 「探求的な学び」、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「フィードバックシステム」など

- ➡ 抽象的な言葉やカタカナ語をちりばめた改革文書を策定して上意下達的に現場に下しても、子ども・生徒の学びの実態や教員の教育実践の情熱を踏まえない限り、改革の実を上げることは難しいのではないのでしょうか。

問題点5 「地域協議会で高校の学びのあり方と具体的な高校の配置を検討する」

- ➡ ところが、県教育委員会は、高校の配置について「再編計画の方向性」を書き込みました。都市部普通高校の統合推進と総合技術高校の拡充を強く示唆しています。再編計画の追認を誘導するのでは「地域協議会」の自由な論議と検討は望めません。

問題点6 改革における当事者性の視点がない

- ➡ 「高校の学び」「高校の配置・種別」の問題の第1の当事者は高校生です。高校生が何を望んでいるかを基底に置くことが求められます。同時に教員も当事者です。決められたことの作業従事者ではないことも確認したい視点です。

教育学者の太田政男さんは、「学校づくり・地域づくり」について「3つのS」を提唱されます。「小さいことは美しい」の「small」、イタリア発の「スローフード」の「slow」、そして「維持(持続)可能」という「sustainable」です。官制の「高校改革」に抗して、「S」(「小規模学校」)、「S」(「競争的でないスローな学校」)、「S」(「地域を維持する学校」・「地域の学校」)を考えることは重要ではないかと思えます。

当事者の願いをふまえた改革になっているのか？

意見交換では、それぞれの立場で高校再編や生徒の実態について意見を交わしました。「実施方針(案)」に対して、少人数学級のよさや当事者である生徒や保護者等の声に寄り添うべきだという発言が相次ぎました。

高校教諭 Hさん

小規模校、少人数学級はきめ細かい支援ができる

今回の高校改革が、コスト削減という側面が強いのではないかと感じる。なぜ統合？なぜ4クラスではダメ？その理由がまったく伝わってこない。先週、保護者懇談会の裏で我々副任は授業の復習(補習)をやっていた。そのたびテストをし、合格者は卒業させていく。25人になった瞬間に、授業中にあまり関心を示さなかった生徒が、あっという間に理解してしまいテストは合格した。少なければ少ないほど、理解はどんどん進む。わざわざモデル校をつくる必要もない。だから学級規模が小さくなればなるほどそういう機会をわれわれ教員も持てるし、机間巡視をしながらわからない子に声をかけることもできる。そこを考えないで、統合すると何かいいことがあるように言われてもびんとこない。学校こそもっと金をかけてもらって、どの学校でも3クラス、4クラスでも成立するんだということをすすめてもらうことが、他の県や他のいろんな国々と比較しても誇れることになってくんじゃないかと思う。そういうふうに学校を考えてもらいたいというも思っている。4~5クラスくらいであれば、問題があっても、担任全体で、あるいは学年全体で考えることができる。

高校教諭 Nさん

生徒や保護者、同窓会の意見取り入れて決めるべき

これまで地域懇談会で意見を述べてきた。特に生徒の方は、探究的な学びはよいとしながらも、4クラスでは残せないのかという点、またPTAからは少人数には少人数の良さがあるという点を訴えていた。今年度にはいってからは、おそらくこの実施方針が策定されて、決定を地域協議会に委ねることになっているが、同窓会とPTAに関しても、地域協議会のメンバーに入れてもらえないのか、という話もあった。生徒や保護者の意見も慎重に取り入れたうえで、決めてほしい。またモデル校の関係も先ほど話があったが、モデル校の公募開始が9月で、3月にモデル校が指定されるということだが、少人数学級をモデル校方式とすれば、指定される・されないという点で、同じ小規模校でも教育格差につながってしまうのではないかと。

高校教諭 Kさん

合理化のための改革ではなく、県独自に少人数学級へ踏み出すべき

この高校改革っていうのは、だれのためなのか。これは教育行政の合理化のためにやるということがクリアになったのではないかと。あたかも生徒の多様なニーズに応えるような学科やカリキュラムをそろえて、どんなプランで生徒に希望や夢を与えるんだということで現場に競わせる、目新しい、可能性を感じさせるようなプロパガンダが上手な、施設が整ったようなところに学生が集まる。そうすると、集まらない学校をどんどん縮小して、長野県教育から撤退してもらいましょうという方向性を考えているんじゃないかといううがった考え方もなる。少人数学級の教育効果の検証とあるが、今さら検証はないだろうと思う。グローバルがいろんな業界でいわれていて、どこの国でも少人数の教育効果は普通に納得されていることではないか。国の設置基準はあるが、県として少人数学級に踏み出してほしい。

高校教諭 Aさん

教育委員会の意向で統廃合の方向を示すのはおかしい、地域から運動を！

長野県の高校改革について協議会をつくるというときに、必須としてあがるのは首長と教育長と産業界。そのメンバーで相談しなさいということで、当事者がはずされるということには本当に憤りを感じる。岡谷南の前は岡谷東で、第1期改革のときには、PTAも生徒も同窓会もみんな反対して統廃合を止めたという経験があり、とてもよかったと思ったが、今度の改革は高校名が上がらず、システムの問題ですすんでいるので、反対するのがとても難しい状況にあるのかなど思っている。岡谷地区の中学生が一番減るのは確かだが、岡谷地区の中学生が岡谷の高校に来ているわけではない。だから岡谷地区の高校を減らすという理屈にはならない。協議会の議論を待たずに、教育委員会が決めていくということになる。地域の声を聞くとはどういうことか、地域から運動を起こしていかなければいけない。

当事者意識のない提案だ、多様な学びに参加できる生徒しか想定していない

この前、高校がなくなってしまった地域の中学校だが、普段は2割くらいの生徒がその高校へ行くが、今回は3人だけ。50人中の3人だけだが、なんでその高校へ行ったかという、他の高校へ行きたかったけど、経済的な理由で行けなかったの、そこにした。せざるを得なかったのだ。全体の入学者数も少ないということで、多様な学びの場、仕組みの整備充実と県の提案にあるが、そこには当事者意識がない。そこに参加できるのは生徒の何%いるのか？逆にそこに参加できない生徒がどのくらいいるとイメージしているのか。当局にはそれを突き付けていく必要がある。そうした生徒を切り捨てても多様な学びに参加できる生徒だけを対象にしてやっていくのか。

競争と規模に基づく拙速な高校再編について、関係者が話し合う機会を

問題提起の一番最後に書いてある3つのSはとても魅力的だと思う。今の高校再編計画の中で語られていることは、要するに「3つのSは中山間地存立校でやりますよ」という意味ではないか。「町場の学校はこの3つのSではない論理でいきますよ」という話で、そこは競争と規模であり、スケールを追求するという話だと思う。それがよいのか？競争的な町の学校で、確かに大きければ部活の規模も大きくなって盛り上がり、勝負ごとの世界でガンガン燃えていく。そういうものに対して、学校をつくる高校の先生方と送り出す私たちや保護者の立場で、本当にこれがいいのか、これしかないのか、町の高校に来るとするのはこういうことなのかということ話し合う時間を取りたい。たとえば各支部で行われる教研集会などの機会を利用して、すべての地区・支部で意識的にこういう機会をつくっていくことが必要ではないか。

子どもの視点が重要、高校生の声をしっかり聴き取ろう！

大事な議論をたくさん出していただいた。この長野県の教育を考える会も、高校統廃合絶対反対だということふうにやっているわけではない。子どもの数もだいぶ減ってきているので、考えなければいけないことは確かに考えなきゃいけない。3つの方針DP、CP、APについて、中学生に何を学ぶか、どう学ぶか、意思が必要であり、そこまでの意識が十分に高まっていない状況の中でそれを強いるということでは、3つのポリシーは形骸化するのではないか。育てたい人間像は、大人の願いを先行させるのではなく、子どもからの視点が重要ではないか。そうした声をしっかり聴いていく必要が県もあろうし、我々もそういったところを議論したりいっしょに取り組んでいきたい。この「考える会」は生徒の声をしっかり聴いていくという点は、一貫して取り組んできた。今回も高校生たちの声をもっとしっかり聴く場をつくっていくことが大事だと思う。

参加者の感想より



現小学生が高校生になったときに、大きく関わる内容だと感じた。今まであまり考えたことのないことを考えることができた。大人たちのためではなく、子どもたちのためにということが前提だと思う。地域での実態を周知していただければ、地域も親ももっと考えていけると思う。(保護者)

こういう問題があることを初めて知った。子どもに対する考え方をしっかり持ちたいと思った。今後知る場や議論する場があれば、参加したい。子どものためになるようにしてほしい。(保護者)

問題点が明らかになってよかった。地域の協議会に当事者が加われないのはおかしい。県に任せず地域として検討すべき。1クラス40人は多すぎる。中学校の教員や保護者とも話し合うべきと思う。(高校同窓会)

教育行政の合理化のためではなく、子どもを主人公においた改革でなくてはいけないと思う。「学校がなくなると地域がつぶれる」ということはよくあること。少人数学級の方が必要であるとあらためて感じる。(中学校教員)



■資料請求や学習会のご相談/ご意見

【あて先】

○長野県高等学校教職員組合

〒380-8790

長野市県町593 高校会館

TEL:026-234-2216 FAX:026-234-2219

E-mail:kyobun.nagano-h@educas.jp

○長野県教職員組合

〒380-0846

長野市旭町1098 長野県教育会館

TEL:026-235-3700 FAX:026-234-6260

E-mail:kyoubun@ntu-net.com